

千葉大学 環境リモートセンシング研究センター

リモートセンシングは、地球に関する知識の拡大、社会問題解決に向けた意思決定に有用な情報を得るための必要不可欠な観測技術であり、今後のさらなる利用が期待されています。「リモートセンシング」の名称を冠した日本で唯一の研究センターが、私たち環境リモートセンシング研究センターCEReS (Center for Environmental Remote Sensing)です。

<http://www.cr.chiba-u.jp/japanese/>



CEReSの仲間たち



※背景はCEReSが処理して得た「ひまわり8号」の画像

国内、国外、研究者、学生、市民との協働を大切にしています。

最先端の研究を進めています！

研究課題はすべて人の暮らしと深く関わっています。



無人航空機搭載マイクロ波センサーの開発

雲があっても夜になっても関係なく地表変動を観測できるマイクロ波の特性を活かした24時間全天候型センサを開発しています。小型衛星の開発も進めています。



ドローンを利用した環境計測技術

人の暮らしが豊かになるよう、農業支援のためにドローンを利用した環境計測を行っています。



レーザーを利用した大気観測

地上の植物量を求める研究を進めています。その過程で自律飛行ができる独自のRCヘリコプタ観測装置を開発しました。



海外での共同観測研究

国内外の共同研究を通じて、いつ、どこで、どの程度、地球環境が変動しているかを調べています。

ビッグデータとしての衛星データの取り扱い、大気中の光伝搬、エアロゾルと地球温暖化のかかわり、レーザー光を大気中に射出して散乱光を検出するライダーの手法などについて学ぶことができます。



RCヘリコプターによる地表面観測



レーザーを利用した森林の観測

森林の反射特性を計算するシミュレータの開発や、レーザー計測機器を用いて実際の森林の立体的構造を取得するなどの活動を行っています。